**第４ 章 環境影響評価の項目、調査、予測及び評価の手法 4.4.2 予測方法**

**大気汚染の調査個所を増やしてください。**

**理由**

2018年6月、「大阪から公害をなくす会」が初めて夢洲のNO2調査に取り組みました。30個のカプセルを設置した結果、平均は２８ppb～３９ppbでしたが、４０ppb以上も5ヶ所ありました。特にコンテナーヤードの周辺が４０ppb以上と長居公園郷土の森（１６ppb）の２倍もあり、汚染のひどい状況でした。WHOは2014年に、大気汚染が発がん性のリスクが明らかになったと発表しています。今回の万博の理念から見ても、大気汚染の被害についての調査を綿密にすべきです。方法書によると、調査箇所は、一般環境1地点、沿道環境3地点とありますが、各区で1地点での調査はあまりにも少ないのではないでしょうか。1地点でよいと判断した理由を教えてください。